

わが社の一押し

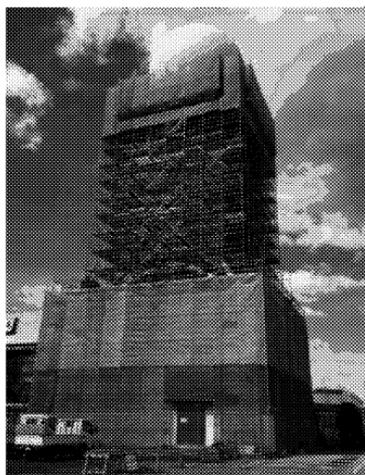
建設現場の作業に不可欠な足場。建設会社の職人たちが、建物を建てながら自ら組み立てるのはよくあるが、東海ステップ（藤枝市）は足場部材の供給と組み立てに特化したサービスを手がける。現場の縁の下の力持ち。そこには様々な技術が凝縮されている。

作業はまず現場の図面や写真を見て、組み方の見当を付ける。建物の高さや足場の場所の広さなどを見極め、足場の設計図を引く。

それに基づき、静岡県内を中心に11カ所ある拠点から踏み板、柱、手すりなどの部材を運び込み、複数の職人が手渡しで組み立てる。

建設の足場部材供給・組み立て

東海ステップ



改良を重ね作業の安全性を高めることで高層ビルなどの足場の受注も増えてきた

「くさび緊結式」作業迅速

同社の組み方は「くさび緊結式足場」という手法だ。いとされてきた。緊結部（ポケット）を備えた支柱に手すりなどの部材をつなげていく。規格化された部材なので効率的に運べ、狭い場所でも迅速に作業できる。ただ安全性が求

められる高所は向いている良を重ねてきた。最新の部材が強固になってきたこともあり、「くさび式」の応用力は高まる。

同社が持つ足場部材は全部で200万個で、業界で最大級という。専属職人が

から半日で完成させる。橋梁や音楽ホール、地下室など特殊な場所でも外が約4割と売り上げを伸ばしている。（安芸悟）

現場の安全意識講習会で高める

足場で最も重要なのは現場の安全だ。職人を束ねる親方は、部材を持ち込む前に職人たちの顔色から体調を判断し、設計図の危険な箇所などを見極めて柔軟に人員を配置させる。

2015年には労働安全衛生法が改正され、足場の安全講習が義務づけられた。大手の発注元が職人を集め、同社に講習会を依頼



職人が発注元に対して安全講習を開く

するケースも増えた。高さや荷重制限などの法律知識、墜落防止のネットを張るタイミングや解体時の足場の作り方などを講義する。品質管理室の南上寿治室長は「足場に関わらない職人でも足場の知識を知っているかどうかで安全への意識は違つ」と指摘する。

200人を抱え、設計から組み立てまでワンストップ

井忠宏社長は話す。同社の年間売上高は約25億円。これまでは戸建て住宅向けが8割だったが、近年は大手ゼネコンが手がける高層ビルやマンションでも受注を獲得し、戸建て以外が約4割と売り上げを伸ばしている。（安芸悟）